



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース 第52号 (Vol.13 No.4)
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1984, 52, p. 1-44
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65595
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

昭和59年度利用申請について

○ 昭和59年度計算機利用申請書の取り扱いについて

昭和59年度の利用申請には「継続申請」と「新規申請」の2種類があります。

1. 継続申請

継続申請とは同じ研究課題で59年度も引き続き利用することです。この申請をすると課題番号、パスワード及びファイルは継続して利用することができます。

ただし、次の場合は継続できませんので「新規」として申請して下さい。

イ. 所属部局に変更がある場合

ロ. 負担経費区分が科学研究費である場合

(例) — 継続できる場合 —

同じ研究課題で申請者が替る時(所属部局に変更がないこと)。

この場合の申請項目欄は継続と氏名欄にチェックし、申請者を赤色で囲んで下さい。

— 継続できない場合 —

同じ研究課題でも、人事異動のため所属部局に変更がある時。

同じ研究課題でも科学研究費である時。

(1) 継続申請の受付期間

2月16日(木)から3月31日(土)まで

(ただし、4月2日から利用する場合は、3月24日(土)までに申請して下さい。)

(2) 継続申請の必要書類

イ. 大阪大学大型計算機センター利用申請書

ロ. 昭和58年度計算機利用報告書

ハ. 経歴書(教務員、研究生等のみ)

なお、「利用申請に係るコード表」の提出は不要です。

(注意) 3年を経過した継続申請書(課題番号下4桁1000番台)は、新たに研究課題及び研究課題の具体的内容を記入して下さい。

(3) 提出先

所属の連絡所に提出して下さい。(吹田地区の方は直接利用者受付でも受付ます。)

継続申請は**3月31日(土)まで**です!

継続申請されていない課題番号下にあるファイルは4月からは使用できません。

2. 新規申請

(1) 新規申請の受付開始

2月16日(木)から

(2) 新規申請の必要書類

イ. 大阪大学大型計算機センター利用申請書

ロ. 大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表(OCR用紙)

ハ. 経歴書(教務員、研究生等のみ)

(3) 提出先

所属の連絡所に提出して下さい。(吹田地区の方は直接利用者受付でも受付ます。)

3. 共同研究者の申請について

共同研究者は、継続利用を認めておりませんので、課題申請者が継続申請されても、共同研究者は「新規」として、申請して下さい。

(共同利用掛)

○ 昭和58年度計算機利用申請の取り扱いについて

昭和58年度の新規申請を2月16日(木)以後に申請される場合は、59年度の新規申請と区別するため、赤色で㊟と明記のうえ、利用申請書を提出して下さい。この記入がない場合は、59年度新規申請として、取り扱いますので御注意下さい。

(共同利用掛)

○ 昭和58年度計算機利用報告書の提出について

利用者は、研究課題ごとに計算機を利用した結果、又は経過の報告書をセンターに提出することになっています。

利用報告書用紙に必要事項を記入のうえ4月末日までに本センター共同利用掛に必ず提出して下さい。

なお、継続申請される利用者は、継続申請時に計算機利用報告書を添えて提出して下さい。

カードロッカーの利用について

1. 整理及び新年度の予約について

年度切替えに伴い学内用カードロッカーの利用者は、3月24日(土)までに御手数でもカード等をお持ち帰り願います。

なお、期限を過ぎた場合は不要なもののみなし廃棄処分いたしますので十分御留意下さい。

59年度の前期(4月～9月)の受付は、4月2日(月)より行いますので、希望者は利用者受付で手続きして下さい。(学外利用者の更新手続きについては、電話でも受付ます。)

できるだけ多くの人に使って頂くため、ロッカーの利用は1人につき1個に限ります。また、カードは指定された場所以外(ロッカーの上、床等)に放置しないように御注意願います。

カードの紛失等については、センターで責任を負いませんので御了承願います。

	3/24	3/26	3/31	4/2
学内用ロッカー	利用期間		整理期間 (この期間は利用できません)	受付及び利用期間
学外用ロッカー	利用期間			受付及び利用期間

年度切替えに伴い、3月30日(金)、3月31日(土)は計算処理サービスが終日中止になりますので御了承下さい。

昭和 59 年度利用者講習会計画

月日	時間	タイトル	内容	受講対象
5月16日 (水)	10:40 }	システムの運用について	<ul style="list-style-type: none"> •センターの概要 •センターの計算機システム •サービス内容 •その他 	FORTRAN 文法習得者で初めてセンターを利用するもの
	12:00			
	13:30 }	ジョブ制御言語について-FORTRAN77 ジョブを中心に-	<ul style="list-style-type: none"> •ジョブについて •アクティビティについて •ジョブ制御言語の機能・規則の説明 •使用例、利用者プログラム実行上の注意 	"
	15:30			
5月17日 (木)	10:40 }	FORTRAN77について	<ul style="list-style-type: none"> •FORTRANの知識のある人を対象にACOS FORTRAN 77の文法とプログラミング技法について述べる。 	FORTRAN文 法習得者
16:30				
5月18日 (金)	13:30 }	FORTRAN77(V) の使用法	<ul style="list-style-type: none"> •FORTRAN77(V)ジョブを実行するうえでの <ol style="list-style-type: none"> コンパイラーオプションの使用法 入出力技法 エラーの原因と対策について説明を行う。 	"
16:00				
5月23日 (水)	10:40 }	第1回 TSSとファイルの利用方法について (講義)	<ul style="list-style-type: none"> •FORTRANの知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイル(MDFを含む)の利用方法について説明する。 	FORTRAN文 法習得者で初めてTSSを利用する者
16:00				
5月24日 (木)	10:40 }	第1回 TSSとファイルの利用方法について (実習)	<ul style="list-style-type: none"> •TSS 端末の操作方法とコマンドを1人90分ずつ実習を行う。 	5月23日の講義を受講した者
16:00				
6月12日 (火)	13:30 }	データベース管理システム INQ概説	<ul style="list-style-type: none"> •INQの概要について説明する •新規開発者への参考になる事項を紹介する。 	プログラミング 習熟者
15:00				

月 日	時 間	タ イ ト ル	内 容	受 講 対 象
6月12日 (火)	15:10 } 17:00	データベース管理システム INQ文法説明	<ul style="list-style-type: none"> • INQにおけるデータ操作言語について文法規則を説明する。 	プログラミング 習熟者
6月13日 (水)	13:30 } 17:00	XYプロッターの利用について	<ul style="list-style-type: none"> • 自動作図装置を利用するためのサブルーチンの説明を行う。 	FORTRAN文 法習得者で初めてXYプロッターを利用する者
6月18日 (月)	10:40 } 16:30	第2回 TSS とファイルの利用方法について (講義)	<ul style="list-style-type: none"> • FORTRANの知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイル(MDFを含む)の利用方法について説明する。 	FORTRAN文 法習得者で初めてTSSを利用する者
6月19日 (火)	10:30 } 16:30	第2回 TSS とファイルの利用方法について (実習)	<ul style="list-style-type: none"> • TSS 端末の操作方法とコマンドを1人90分ずつ実習を行う。 	6月18日の講 義を受講した者
7月 3日 (火)	13:30 } 16:00	グラフィックディスプレイ (N6922)	<ul style="list-style-type: none"> • グラフィックディスプレイの使用法を説明し、操作法を説明する。 	TSSの習熟者 でこれからグラフィックディスプレイを利用する者
7月 4日 (水)	10:40 } 16:30	スプール処理システムの利用について	<ul style="list-style-type: none"> • 磁気テープの読み取り、作成 • ファイルライブラリテープの作成、追加、復元 • セーブテープの作成、復元 • テープコピー • フロッピーディスクのデータセットの入力、出力、コピーおよびデータセット上のジョブの実行 以上について説明と実習を行う。	初めてスプール 処理を利用する 者
9月14日	13:30 } 15:30	データベース管理システム INQ構築技法について	<ul style="list-style-type: none"> • INQによるデータ構造記述およびデータ格納技法を説明する。 	プログラミング 習熟者

昭和59年度研究開発計画の公募について

大型計算機センターの計算機システムは、これからも逐次拡充を図る予定です。ハードウェアはめざましい技術の発展と共に拡充されますが、ソフトウェアはセンターだけの力ではなかなか拡充できず、宝の持ち腐れともなりかねません。

研究開発計画は、広く利用者からセンターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に役立つものを募集します。

センターの利用者資格者であれば誰でも応募できますので、次の要領によって応募されることを期待しています。

応 募 要 領

1. 研究開発計画の対象

- (1) 基礎及び応用プログラム開発に関するもの
- (2) 計算機言語に関するもの(クロスコンパイラの開発など)
- (3) 計算機利用に関するもの(各種のユーティリティ・プログラム作成など)

2. 研究開発(データ・ベース)計画の対象

- (1) 学術文献データベースに関するもの
- (2) 各種実験データ、データベースに関するもの

3. 研究開発(プログラム・ライブラリ整備)計画の対象

- (1) プログラム・ライブラリの書き換え、改良及び、精度、信頼性の検定

などで、センターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に関して役立つものです。

4. 応募資格

センター利用有資格者

5. 応募方法

該当する研究開発計画申請書(共同利用掛にあります)を共同利用掛に提出して下さい。

6. 締 切 日

昭和59年3月31日

昭和59年度プログラム相談員の募集について

センター内のプログラム相談室では、毎日一定時間内に、プログラム上の問題やセンター利用全般についての相談に応じています。十分なプログラム相談を行うには、毎年相当数のプログラム相談員が必要です。

センターでは、昭和59年度のプログラム相談員を下記の要領で募集しますので御協力いただける方、われと思われる方は是非応募下さるようお願いいたします。

記

資格：本センターの利用有資格者

期間：昭和59年4月～昭和60年3月（前後期各々半年も可）

内容：利用者からのプログラム相談員、当センターで週1回2時間（隔週でも可）

月～金	土
① 10：00～12：00	① 10：00～12：00
② 13：00～15：00	
③ 15：00～17：00	

待遇：1. 利用負担金の一定額免除

- イ. 任期1年の方 14万円相当（隔週担当の場合は7万円相当）
- ロ. 任期半年の方 7万円相当（隔週担当の場合は3.5万円相当）
2. マニュアルを一定限度まで無償配布
3. プログラム相談室の端末の利用
4. ジョブの優先処理

応募方法：応募用紙が本センター、豊中DSにありますので必要事項記入のうえ下記宛まで提出して下さい。

〒567 茨木市美穂ヶ丘5番1号（阪大吹田団地内）
大阪大学大型計算機センター共同利用掛

切：昭和59年3月31日

応募用紙の請求及び不明な点については、センター共同利用掛（TEL 06-877-5111 内線2817）までお問い合わせ下さい。

TSS 端末から大型計算機センターへ 質問・要望等の情報交換について！

TSS 端末から、“\$MAILS” コマンドを入力することによって、大型計算機センターに対して、利用者自身がプログラムの質問・端末の事項についての質問・センターの運用についての質問等を行うことができます。そして大型計算機センターでは、この質問等に対して利用者への連絡等を行います。また、TSSの“MAIL. BOX” ファイルを通して利用間で情報交換もすることができます。このTSSの“MAIL. BOX” ファイルは、“\$MAILS” コマンドによって自動的に作成されますので、利用者は、“MAIL. BOX” ファイルを作成する必要がありません。

TSS端末からログオン手続きを行ったとき、既に、“MAIL. BOX” ファイルが存在していて、大型計算機センターから(又は、他利用者から)情報が届いている場合には

“YOU HAVE MAIL.”

のメッセージが出力されます。この時、TSSの“MAIL” コマンドを入力することによって、“MAIL. BOX” ファイル内のすべての情報を出力することができます。

a. 大型計算機センターに情報を送る時の“\$MAIL” コマンドについて

(\$MAILS コマンド問答形式一覧)

コマンド形式 : \$MAILS		
質 問	応 答	説 明
BUILD/FILE?	BUILD 又は、(CR) キー FILE : 送付情報 ファイル	“INPUT LETTER”メッセージが出力され、ビルド・モード(*)になる。これ以後、入力した内容が、送付情報とされる。 利用者の指定したファイルの内容が送付情報となる(/ファイル名)。 ファイルの内容は、日本語、カナ文字、ローマ字のどちらでも良い。

b. 大型計算機センターからの情報を出力する時の“MAILH”コマンド、“MAIL”コマンド等について

コマンド	パラメータの形式	パラメータの意味	機能
MAIL	課題番号(; 課題番号) ... △ { GROUP名	課題番号：利用者識別名 GROUP名：ファイル名 (ファイル内に対象とする課題番号を、1行または、;で区切って、LNO無しで作成しておく)。 パラメータ省略：MAIL, BOX内のすべての情報が表示される。	大型計算機センター(CENTER)・他の利用者からの情報を参照することができる。
	問答形式 DELETE ?	YES	MAIL, BOXファイル内の情報を消去する。
		NO または (CR) キー	MAIL, BOXファイル内の情報を消去しない。
MAILH	MAILと同様	MAILと同様	大型計算機センターから送付されている情報・他の利用者から送付されている情報(MAIL, BOXファイル内)の課題番号と送付日時を表示する。
MAILC	課題番号(; 課題番号) ... △ { GROUP名	課題番号：利用者識別名 GROUP名：グループファイル名(MAILと同様)	他の利用者・大型計算機センターに既に送付した情報を相手が確認したか否かを調査する。
MAILD	MAILCと同様	MAILCと同様	他の利用者・大型計算機センターに対して送付した情報を消去する。

c. 他の利用者に対して情報を送る時の“MAILS” コマンドについて

コマンド	パラメータの形式	パラメータの意味	機能
MAILS	Δ { 課題番号(; 課題番号) ... GROUP名	課題番号：利用者識別名 GROUP名：グループ ファイル名 (MAIL と同様)	他の利用者へ情報を送付する。
	USERID / GROUP ? (MAIL コマンドにパラメータを与えないとき)	USERID：課題番号 GROUP名：グループ ファイル名	
	BUILD / FILE ? (\$MAIL コマンドと同様)	BUILD または (CR) キー	“INPUT LETTER” メッセージが出力され、ビルドモード(*)となる。これ以後入力した内容が送付情報とされる。
	問答形式	FILE：送付情報ファイル名	利用者の指定したファイルの内容が送付情報となる(/ファイル名)。 ファイルの内容は、日本語、カナ文字、ローマ字のどちらでも良い。

d. \$MAIL コマンドの使用例(キーボードからの入力)

```

* $MAILS ----- ①
  build/file? (CR) ----- ②
  input letter
  *1983 ネン11カ"ツ19ニチ USERネイム レンラク ナイヨウ
  * N6300/モテ"ル50N ノFD0ノ ファイル テンソウ ノ シヨウ ホウホウ カ" ワカラナイノテ" オシエテホシイ。
  * マタ、TSSノ センヨウカイセン ニ オイテ フローセイキ"ヨ(DC1/DC3) ノ クワシイ コト オ オシエテホシイ。
  * イシ"ヨウ ノ コトニツイテ ワカレハ" ナイセン XXXX ニ レンラク シテホシイ。
  * (CR)
  sent to CENTER
  completed
  *
  
```

(説明)

- ① : \$MAILS コマンドを入力する。
- ② : build file ? に対して、CR キーのみの応答(build と同一) を行う。
- ③ : input letter のメッセージ表示行、*(ビルドモード)となり、送付情報を入力する。
ここでは、4行入力している。送付情報の終了は、*となり、CR キーのみ入力を行う。

送付情報が終了すると、“sent to CENTER”、“completed” のメッセージが表示されて、TSSのビルドモード(*)となる。

CENTERが、情報が送られる課題番号となる。

e. \$MAIL コマンドの使用例 (ファイルからの入力)

```
*$MAILS ----- ①  
build/file? /GIGI/DAI6 ----- ②  
sent to CENTER  
completed
```

*

(説明)

- ① : \$MAILS コマンドを入力する。
- ② : build/file ? に対して、ファイル名を入力する。ここでは、サブカタログ名(GIGI)の下のファイル(DAI6)を指定している。
送付が終了すると、“sent to CENTER”、“completed” のメッセージが表示されて、TSSのビルドモード(*)となる。

(業務掛)

SORT コマンドについて

ファイルの分類(ソート)は、TSS 処理およびバッチ処理で行うことができるが、ここでは、TSS 処理で行う SORT コマンドについて説明する。

ソート処理は、レコード中の任意の文字列を、キー(Key)とし、キーの大小関係をシステム内で比較して、新たにキーの大小順に従ったレコード順のファイルを作成するものです。

キーとなる文字列には、1バイトの英数カナ文字はもちろん、漢字・ひらがな等の2バイト文字を使用することも可能ですが、1バイト文字と2バイト文字をキーとして混在させることはできません。^(注1)

SORT コマンドの処理手順

SORT コマンドは、SYSTEM レベル、ビルドモード のどちらでも入力することができます。

SORT コマンドを入力すると、次の様にソート処理に必要な要素の指定をシステムが要求して来ます。

```
{ SYSTEM? }  SORT ..... SORT コマンドの入力
*
```

INPUT? 入力ファイル名と日本語ソートファイルの指定をする。

OUTPUT? 出力ファイル名の指定をする。

IFORM? 入力ファイルの形式を指定する。

OFFORM? 出力ファイルの形式を指定する。

FIELD? レコードフィールドの分割を指定する。

KEY? キーに関する指定を行う。

PICK? レコードの選択削除の指定を行う。

OPTION? オプション指定を行う。

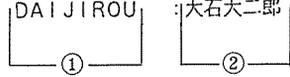
? キャリジターンを入力すると上記パラメータに従って、ソート処理を行う。

次に SORT コマンドを実際に使用した例を示します。

注1：キー以外の文字列での1バイト文字と2バイト文字の混在については、何ら問題ありません。

*** ソート処理の実例 ***

```
*LIST INFILE
0010 YAMADA HISASHI :山田久志
0020 IMAI YUUTAROU :今井雄太郎
0030 YAMAUCHI KAZUHIRO :山内和弘
0040 KAGEURA YASUTAKE :景浦安武
0050 SUZUKI KEISHI :鈴木啓司
0060 OOISHI DAIJIROU :大石大二郎
```



①の部分をキーにしてソートを行うと

```
*SORT
INPUT? INFILE
OUTPUT?OUTFILE1
IFFORM?F,,,,6
OFFORM?
FIELD? A14,A8
KEY? A2
PICK?
OPTION?
?
```



結果は次の通りになります。

```
*LIST OUTFILE1
0060 OOISHI DAIJIROU :大石大二郎
0010 YAMADA HISASHI :山田久志
0030 YAMAUCHI KAZUHIRO :山内和弘
0050 SUZUKI KEISHI :鈴木啓司
0040 KAGEURA YASUTAKE :景浦安武
0020 IMAI YUUTAROU :今井雄太郎
```

②の部分をキーにしてソートを行うと

```
*SORT
INPUT? INFILE,(SORT/DT,SORT/IX)
OUTPUT?OUTFILE2
IFFORM?F,,,,6
OFFORM?
FIELD? A25,N2,N10
KEY? AK3
PICK?
OPTION?LIST,,,,,55K
?
```



結果は次の通りになります。

```
*LIST OUTFILE2
0020 IMAI YUUTAROU :今井雄太郎
0060 OOISHI DAIJIROU :大石大二郎
0040 KAGEURA YASUTAKE :景浦安武
0050 SUZUKI KEISHI :鈴木啓司
0030 YAMAUCHI KAZUHIRO :山内和弘
0010 YAMADA HISASHI :山田久志
```

上記の2つの処理のうち、②の部分をキーにしたものは、日本語データ（2バイトデータ）をキーにしているところから、“日本語ソート”と呼びます。

以降ソート処理に関する説明を処理手順にそって説明します。

1. 入力ファイル名と日本語ソートファイルの指定

ソートコマンド入力後システムから

INPUT ?

と尋ねて来たとき、ソート処理を行うファイル名(入力ファイル)を指定する。

また、キーに2バイト文字を使用する場合には、,(カンマ)に続けて日本語ソートファイルの指定(例 1.1 参照)も行います。

例 1.1 2バイト文字(日本語)をキーにしてソートする場合

INPUT ? 入力ファイル名 , (SORT/DT, SORT/IX) ^(注2)

例 1.2 1バイト文字をキーにしてソートする場合

INPUT ? 入力ファイル名

2. 出力ファイル名の指定

入力ファイルを指定し、キャリッジリターンを押下するとシステムから

OUTPUT ?

と尋ねて来るので、ソート処理を実行した結果を出力するファイル名(出力ファイル)を指定します。

出力ファイルは次の条件を満たしているものを指定しなければなりません。

- ① 順編成ファイルである。
- ② ファイルのMAX SIZEが入力ファイルと同じか、それよりも大きい。
- ③ SORTコマンド入力時に、利用者のパーマネントファイルに存在する。

以上の条件を満たす出力ファイルを作成するには、ACCESSサブシステム^(注3)を使用するのが本来望ましい形ですが次の様にCPYコマンドを使って入力ファイルと同じ形のファイルを出力ファイルに使用することもできます。

注2 : SORT/DT, SORT/IX は、システムに用意されている日本語ソートファイルである。

注3 : センター発行の「TSSの手引」を参照下さい。

※CPY 入力ファイル名 ; 出力ファイル名 …… CPYコマンドのパラメータ
上記以外にOLDコマンドで入力ファイルを読み出した後、SAVEコマンドで出力ファイルを作成することもできます。

例 2.1 出力ファイル名の指定

OUTPUT? 出力ファイル名

3. 入力ファイル形式の指定

出力ファイルを指定し、キャリッジリターンを押下すると、システムから

IFORM?

と尋ねて来るので、必ず下記のように応答して下さい。

IFORM? F , , , 6

但し、入力ファイルにTSSの標準ファイル(FRC形式、最大レコード長 80 バイト)以外
のものを使用する場合は、応答が異なりますので御注意下さい。^(注4)

上記の応答の後、システムから

OFFORM?

と出力ファイル形式を尋ねて来るので、入力ファイル形式と同一形式のファイルとして出力
する場合は、CRのみを入力する。なお、入力ファイル形式と出力ファイル形式が異なる場
合は、そのファイル形式に応じたパラメータを入力する。

OFFORM?

注 4 : UFAS形式のファイルを御使用される場合は、日本電気発行「ACOS 6 データ管理ソフト / マージ説明書」をご覧下さい。

4. レコードフィールドの分割

ソートを行う場合、レコードのどの部分をキーにするかを指定することが必要で、この指定は、レコード中の文字列の桁数(バイト数)で分割します。

システムから

FIELD?

と尋ねて来ますから、まずキーとなる文字列(以降「キーフィールド」と呼びます)までの文字列が1バイト系なら「A」、2バイト系なら「N」を指定し、その後バイト数を指定しその後「,」をはさんで、キーフィールドの1・2バイト系別とバイト数の指定を行います。

以降実際のファイルを用いて説明します。

(イ)

TAKAMATSU8311高松市
TAKATSUKI8321高槻市
KAWANISHI8611川西市
TOKUSHIMA8503徳島市
AMAGASAKI8318尼崎市
MATSUYAMA8185松山市

左のファイルで、4桁の数字をキーにする場合まず、1バイト系の英文字が9バイト分あるので A9 キーは、1バイト系の数字4バイト分だから A4 キーよりも後の部分は無視します。

従って「FIELD?」に対する応答は、「A9, A4」となります。

(ロ)

高松市69374238吉村弘志
高槻市55323564村下貞雄
川西市39635829竹脇淳二
徳島市44062396林田宏子
尼崎市64455346宮田晃一
松山市46474753山田和美

左のファイルで、後の4文字からなる日本語データをキーにする場合、先頭の日本語文字から3文字ですが、日本語文字の場合、文字列の先頭に「漢字IN(KI)」文字列の末尾に「漢字OUT(KO)」といわれる一種のシフトコードがそれぞれ2バイト分ずつあります。従って

日本語文字は1文字が2バイトですから、 $2(KI) + 3 \times 2(3文字の日本語文字) + 2(KO) = 10$ で、先頭の日本語文字列は N10 と表します。

次の1バイト系8文字は A8 また「KIコード」はソートの対象外ですので N2 そして日本語キーフィールド(KOは含まない)分の N8 ということになり、「FIELD?」に対する応答は、「N10, A8, N2, N8」です。

(二)

L I V E R P O O L
M A N H A T T A N
V A N C O U V E R
F R A N K F U L T
A N C H O R A G E
K I S H I W A D A

例 3.2 上記の(二)のファイルをレコード全体(9バイト)をキーにし、昇順で並び変える場合。

(' F I E L D ? ' に対する応答は、 ' A 9 ')

KEY? A 1

5.2 キーが2バイト系の文字列の場合

2バイト系の文字列をキーにするソート処理を特に、「日本語ソート」と呼びます。

日本語ソートには、日本語の持つ種々の特性(漢字の読み、拗促音など)のため数種の照合順序があり、大別して次の2つの方式に区別されます。

- ・漢字順表方式
- ・国語辞典方式(漢字文字を示すデータは扱えません。)

以下この2つの方式に属する照合順序についての説明をします。

・漢字順表方式

漢字の読み順・画数順などの漢字特有の照合順序を定義されたものを「漢字順表」と言います。当システムでは5種類の漢字順表がセットされていますが、ユーザー個人が自分の用途に応じた漢字順表の作成及び利用を行うこともできます。

・国語辞典方式

ひらがな、カタカナのみで表わされるキーを対象とするもので、国語辞典に見られるように清音の読みをもとにして五十音順に分類するもので、拗音や促音などの取り扱いによって次の2種類に分けられる。

小文字・拗促音を普通の大文字・直音の { 前に位置づける。…………… G方式
 後に位置づける。…………… Y方式

◎ 日本語ソートの際のキー指定の応答

システムから

KEY?

と尋ねて来たら、次の三文字で応答して下さい。

1文字目 A ……… 昇順

 D ……… 降順

2文字目 (日本語文字の照合順序を選択する。)

┌ B ……… 部首コード順(漢和辞典と同じもの)に漢字が並んでいます。

漢 S ……… 漢字の総画数順に漢字が並んでいます。

字

順 O ……… 音読み順に漢字が並んでいます。

表 K ……… 訓読み順に漢字が並んでいます。

方

式 J ……… JISコード順に漢字やその他の日本語文字が並んでいます。

└ U ……… 利用者が任意に作成した漢字順表を使用する際のものです。^(注5)

G ……… 国語辞典方式のG方式。

Y ……… 国語辞典方式のY方式。

3文字目 先のレコードフィールドの分割をした際、キーフィールドの先頭からの位置
(左から何番目にあるか)を、数字で示すものです。

3文字目の後に (CR) を押下するとキーについての応答が終了します。

注5：利用者が定義する漢字順表の作成・利用については、日本電気発行の「ACOS 6 データ管理 ソート/マージ説明書」をご覧ください。

例 3.3 先の(ロ)のファイルで後の4文字からなる日本語データを訓読み順の漢字順表を使って昇順(アイウエオ順)にソートする場合。

KEY? AK4

例 3.4 先の(ハ)のファイルで日本語データ全てを、① JISコード順の漢字順表を使って、② 部首順の漢字順表を使って、各々昇順にソートする場合。

① KEY? AJ2

② KEY? AB2

例 3.5 次の(ホ)のファイルでひらがな5文字からなる日本語データを、① 小文字、拗促音を直音の前に位置つけて、② 小文字、拗促音を直音の後に位置つけて、各々昇順にソートする場合。(▼FIELD?▼への応答は▼A4,N2,N10▼)

(ホ)

0010ああししし
0020ああじじじ
0030ああざざざ
0040ああじよつ
0050ああじょっ
0060ああざざざ
0070ああじよつ

① KEY? AG3

② KEY? AG4

【備考】

- 漢字順表での2バイト系の英数字、カタカナ、ひらがなの位置は、「部首順」・「音読み順」・「訓読み順」・「総画数順」の漢字順表の場合は、漢字の後に位置づけられており、「JISコード順」の漢字順表では漢字の前に位置づけられています。
- 国語辞典方式のソートでは、2バイト系のカタカナ、ひらがなのほかに、1バイト系のカタカナも扱うことができますが、1・2バイト系の英数字は扱えません。

次に、例 3.1～例 3.5 までに示したものを実際に行った実行結果を示します。

例 3.1 の結果

KAWANISHI 8611 川西市
 TOKUSHIMA 8503 徳島市
 TAKATSUKI 8321 高槻市
 AMAGASAKI 8318 尼崎市
 TAKAMATSU 8311 高松市
 MATSUYAMA 8185 松山市

例 3.2 の結果

ANCHORAGE
 FRANKFURT
 KISHIWADA
 LIVERPOOL
 MANHATTAN
 VANCOUVER

例 3.3 の結果

川西市 39635829 竹脇淳二
 徳島市 44062396 林田宏子
 尼崎市 64455346 宮田晃一
 高槻市 55323564 村下貞雄
 松山市 46474753 山田和美
 高松市 69374238 吉村弘志

例 3.4 の①の結果

神戸市	東灘区	岡本	8 - 9 - 1
神戸市	東灘区	深江南町	5 - 1 - 1
神戸市	東灘区	本山北町	4 - 19 - 1
大阪市	旭区	大宮	5 - 16 - 1
大阪市	住吉区	杉本	3 - 3 - 138
大阪市	天王寺区	南河堀町	4 - 88

例 3.4 の②の結果

大阪市	住吉区	杉本	3 - 3 - 138
大阪市	天王寺区	南河堀町	4 - 88
大阪市	旭区	大宮	5 - 16 - 1
神戸市	東灘区	岡本	8 - 9 - 1
神戸市	東灘区	本山北町	4 - 19 - 1
神戸市	東灘区	深江南町	5 - 1 - 1

例 3.5 の①の結果

0060 あゝざざざ
 0030 あゝざざざ
 0010 ああししし
 0020 ああじじじ
 0050 ああじょつ
 0070 ああじょつ
 0040 ああじょつ

例 3.5 の②の結果

0030 あゝざざざ
 0060 あゝざざざ
 0010 ああししし
 0020 ああじじじ
 0040 ああじょつ
 0070 ああじょつ
 0050 ああじょつ

6. ▼PIC? ▼・▼OPTION? ▼・▼? ▼に対する応答

システムから

PIC?

と尋ねてきたら、キャリッジリターンのみを入力して下さい。続いてシステムから、

OPTION?

と尋ねてきますから、キーが1バイト系文字の時はキャリッジリターンのみを、日本語ソートの時は、▼, , , , , 60K (CR) ▼ と入力して下さい。

続いてシステムから

?

とだけ尋ねて来ますからキャリッジリターンを入力すれば、ソート処理が実行されます。

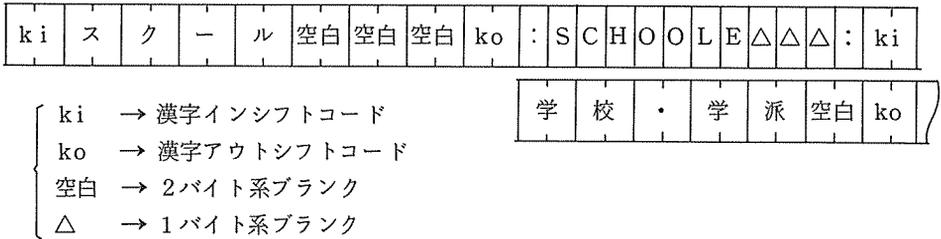
7. SORTコマンドの処理実行例

ここでソート処理を通しての実行例を挙げます。

```

スクール      : SCHOOL      : 学校・学派
スカーレット  : SCARLET     : 緋色
スケール      : SCALE       : 尺度・物差し
スカulpturer : SCULPTER    : 彫刻家
スコアボード  : SCOLEBOARD  : 得点掲示板
スキーム      : SCHEME      : 企画構案
    
```

上のファイル(ファイル名=NYURYOKU)の先頭行のレコードは次の様になり、他のレコードもこれに準じた構造になっています。



例 4.1 先頭の2バイト系カタカナ文字を国語辞典方式のY方式(小文字は大文字の後)で昇順にソートして、KATAKANA というファイルに出力する。

```

* SORT
INPUT? NYURYOKU (注6)
OUTPUT? KATAKANA
IFFORM? F, , , , 6
OFFORM? (CR)
FIELD? N2, N14
KEY? AY2
PICK? (CR)
OPTION? , , , , , 60K
? (CR)
    
```

▽ ? (CR) ▽ の後 * が表示されれば処理は終了です。

出力ファイルを LIST コマンドで確認します。

```

*LIST KATAKANA
スカーレット : SCARLET      : 緋色
スカulpturer : SCULPTER    : 彫刻家
スキーム      : SCHEME      : 企画構案
スクール      : SCHOOL      : 学校・学派
スケール      : SCALE       : 尺度・物差し
スコアボード  : SCOLEBOARD  : 得点掲示板
    
```

注 6 : 国語辞典方式の場合、キーが2バイト系であっても日本語ソートファイルの指定は、必要ありません。

例 4.2 中央部の1バイト系の英文字を、昇順にソートして ALPHABET というファイルに出力する。

* SORT

INPUT? NYURYOKU

OUTPUT? ALPHABET

IFORM? F, , , , 6

OFFORM? (CR)

FIELD? N18, A1, A10 …………… key 以外の場合 KI, ko と日本語データを

KEY? A3 一緒にまとめてもかまいません。

PICK? (CR)

OPTION? (CR)

? (CR)

キーが1バイト系の時のみ次の様なメッセージが出力され、処理が終了します。

```
  SORT ENGAGED - VERSION:  R009
  COLLATION: 0354/DOUBLE  TOURNAMENT: 000097 ENTRIES
  END OF FILE ON NYURYOKU.  RECORDS READ = 00000006.
  RECORDS ACCEPTED = 00000006.  RECORDS DELETED = 00000000.
  THIS SORT WAS MEMORY CONTAINED.
  RECORDS INPUT = 00000006.  RECORDS OUTPUT = 00000006.
  SORT TERMINATES.0
  0499T 11:26'45"184 (00:00'02"871,00:00'00"013)
```

LIST コマンドで結果を確認すると次の様になります。

```
*LIST ALPHABET
スケール      :SCALE      : 尺度・物差し
スカーレット  :SCARLET     : 緋色
スキーム      :SCHEME     : 企画構案
スクール      :SCHOOL      : 学校・学派
スコアボード  :SCOLEBOARD  : 得点掲示板
スカルプター  :SCULPTER    : 彫刻家
```

例 4.3 後部の日本語データを、「音読み順」の漢字順表ファイルを使い昇順にソートして、NIHONGO というファイルに出力する。

* SORT

INPUT? NYURYOKU, (SORT/DT, SORT/IX)

OUTPUT? NIHONGO

INFORM? F, , , , 6

OUFORM? (CR)

FIELD? N18, A12, N2, N12 キーフィールドに“KI”を

KEY? AO4 入れることはできません。

PICK? (CR) また、日本語データのブラン

OPTION? , , , , , 60K クと1バイト系の空白は、

? (CR) 全く別のものですから、ご注意下さい。

LISTコマンドで出力すると次のようになります。

```
*LIST NIHONGO
スクール      : SCHOOL      : 学校・学派
スキーム     : SCHEME      : 企画構案
スケール     : SCALE       : 尺度・物差し
スカルプター : SCULPTER    : 彫刻家
スコアボード : SCOLEBOARD  : 得点掲示板
スカーレット : SCARLET     : 緋色
```

ここでは、JIS標準システム形式のファイルを例にして説明をいたしましたが、ACOS-6におけるソートは、いろいろな形式のファイルやコード(JIS, ASCII, EBCDIC, BCD, etc)のファイルをソートする機能を備えているので、詳細については「ACOS-6データ管理ソート/マージ説明書」を御参照下さい。

8. エラーメッセージ

メ ッ セ ー ジ	意 味
PARAMETER MISSING	指定しなければならないパラメータの指定がない。
fffffff FILE ACCESS ERROR ssss ステータスコード	ファイル名 ffffffff の指定に対し ssss (ステータスコード) のエラーが発生した。
4001	マスタカタログに名前がない。
4003	パーミッション拒否。
4004	ファイルビジー、再試行する。
4011	ユニーク名でない。
4014	パスワードが必要。
4015	ファイルにアポートロックがかかっている。
4034	カタログ/ファイル名上に不正文字。
4036	AFTがいっぱい。
EXECUTION HAS BEEN ABORTED	ソート処理実行中に異常終了した。
ILLEGAL CHARACTER IN CONTECT	レコードの内容が、レコードフィールド記述 (FIELD? に対する応答) と一致しない。
ILLEGAL EXTRACT FIELD BOUNDARY	ソートレコードを作成する際、エクストラクトフィールドが境界エラーを起こした。レコードフィールド記述 ^(注7) またはキー記述 ^(注8) を見直す必要がある。
NO SEQ MACRO IN CALLING PROGRAM	キー記述 ^(注8) が指定されていない。
NO ASCENDING/DISCENDING TYPE CODE IN SEQ	キー記述 ^(注8) 中に、キーの順序を指定する文字が存在しない。

以降、日本語ソート(国語辞典方式を含む)のみに関するメッセージ

ILLEGAL CODE OVER PERMISSIVE RANGE IS FOUND IN JIPS CODE KEY FIELD	国語辞典方式のソートのキーとして指定された日本語データの中に、ひらがな・カタカナ以外の文字が存在している。
nnnnnnnn ILEGAL RECORDS ARE IN JIS/JIPS CODE KEY FIELD	同 上 nn …… n は、誤まったデータを含むレコードの出現回数。
NO JIPS CODE OF KANJI FIELD	キーとして指定された日本語文字列の中に、日本語文字コード以外のものが存在する。

注7：▼FIELD?▼に対する応答。

注8：▼KEY?▼に対する応答。

参考文献) ACOS-6 データ管理 ソート/マージ説明書 日本電気株式会社

(業務掛)

レベル2A手順の交換回線 (1200BPS)サービスについて

レベル2A手順の1200BPS交換回線サービスを、1月20日(金)から開始しました。この新しい交換回線サービスには、次のような特徴があります。

- (1) 電話機と端末機を接続する音響カプラー(NEC LSI1200CA)が安価である。
- (2) 無手順の交換回線は、当センターより遠隔の所(阪大の吹田地区、豊中地区以外)から利用している時、公衆回線または電々公社の交換機等の影響を受けて、時々端末側で受信する文字が化けることがあり、TSS利用に支障をきたす場合がある。レベル2A手順では、上記のような場合はシステムとして送受信データを再送するので、文字化けが発生しない。
- (3) 画面テキストエディタ(スクリーンエディタ)や日本語エディタの利用ができる。

レベル2A手順の交換回線を利用する場合には、下記要領で申請手続および端末機等を設置することにより利用することができます。

なお、詳細については業務掛(内線2810)へお問合せ下さい。

記

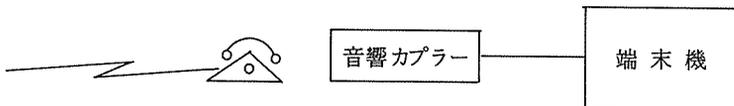
1. 端末設置申請手続

レベル2A手順の1200BPS交換回線の端末設置においては、次の申請書を提出する。

設局設置申請書(本大型計算機センター長宛)

2. 端末機等の設置

レベル2A手順の端末機を設置する場合は、構成図のように機器を構成する。



レベル2A手順の1200BPS交換回線端末の構成図

- 音響カプラー …………… 日本電気(株)のDATAX LSI1200 CA音響カプラー (価格 98,000 円) を使用。
- 端 末 機 …………… 1200 BPS で下図の伝送制御手順仕様で動作する端末。

通 信 方 式	半二重通信方式
同 期 方 式	調歩同期
伝 送 コ ー ド	JIS7 単位+偶数パリティ
伝送制御手順	NEC 標準手順 レベル 2A
接 続 方 式	コンテンション方式
該 当 端 末	NEC N6300系 NEC N5200/05 NEC PC-9800 (注1) (フロッピィディスクが必要)

(注1) PC-9800を利用する時は、オンラインユーティリティ ETOS-31Ke (価格 60,000 円) を購入のこと。

(業務掛)

FORTRAN77(V)とFORTRAN(R)の バージョンアップ(再掲載)

11月14日(月)から、FORTRAN77のVモードとFORTRANのRモードのコンパイラを、バージョンアップしました。

新コンパイラ

FORTRAN77のVモード リビジョン番号V005, コンパイラの大きさ79KW

FORTRANのRモード リビジョン番号R012, コンパイラの大きさ36KW

FORTRAN77のVモードの追加機能などを以下に示します。なお、FORTRANのRモードは不良点の修正のみで、外部仕様は従来と同一です。

- (1) 直接探査書式なし入出力に対する最大記録長の拡大

FRC形式 $16384 (=2^{14})$ バイト $\rightarrow 131071 (=2^{17}-1)$ バイト

UFF形式 $16372 (=2^{14}-12)$ バイト $\rightarrow 131071 (=2^{17}-1)$ バイト

上記の拡大により、記録長(RSZ)とバッファ長(CISZ, CI長)の関係式

FRC形式 $RSZ \leq CISZ$ UFF形式 $RSZ+12 \leq CISZ$

は不要となる。ただし、この関係が満足されないときは複数回に分割して処理されるため、処理効率上、分割個数をへらすようにCISZ(最大は16384バイト)をえらぶほうがよい。

- (2) FRC形式順番探査書式なし入出力に対する最大記録長の拡大

磁気ディスク 1272×1023 バイト $\rightarrow 1272 \times (2^{18}-1)$ バイト

磁気テープ 16376×1023 バイト $\rightarrow 16376 \times (2^{18}-1)$ バイト

- (3) 端末入力促進文字変更機能

組込みサブルーチンFPARAMによる入力促進文字列の変更機能を、FORTRANのRモードと同一仕様とする。

- (4) 端末入力に対するマルチファイル処理

入力ファイルに対して、END=指定子で指定された文に分岐後、再び同一ファイルに対してREAD文を実行することができる。

- (5) RUNコマンドの入力プログラムファイルの処理の変更

旧 RUN 入力プログラムファイル: オプション

新 RUN 入力プログラムファイル, パーミッション: オプション
省略可(既定値W)

- (6) コンパイラオプションARGCHKと最適化オプションの優先順位

ARGCHKが指定されていると、OPT=2, OPT=3の指定は無視され、OPT=1とし

て処理される。現行のコンパイラもすでにこの仕様に変更されている。

(7) コンパイラオプションBYNAME/NOBYNAMEの既定値の変更

旧	既定値はBYNAME
新	$\left\{ \begin{array}{ll} \text{OPT} = 0, 1, 2 \text{ のとき} & \text{既定値はBYNAME} \\ \text{OPT} = 3 \text{ のとき} & \text{既定値はNOBYNAME} \end{array} \right.$

(研究開発部)

ASLとMATHLIB-6について(再掲載)

11月14日(月)から、ASL(Advanced Scientific Library)の新規サービスとMATHLIB-6のバージョンアップを行いました。

(1) ASLの新規サービス

ASLは、MATHLIB-6と同様の目的をもった科学技術計算ライブラリであり、MATHLIB-6と比較して、以下の特長もっています。

- アルゴリズムは、新しいものを採用し、実行速度を改善。
- 仮想メモリ、ベクトル処理などを考慮したコーディングにより、実行速度を改善。
- 当面は線形計算のみであるが、バンド行列の処理などのMATHLIB-6にはない機能がある。
- FORTRAN77のVモードでのみ使用可能。

ファイル名、使用法などを次に示します。なお、FORTRAN77のRモードおよびFORTRANから使用できるASLをサービスする予定はありません。

ファイル・コード A7

UMC/ファイル名 LIB/ASL7

使用法 { バッチ処理 \$GO文のオプションにASLと指定する。
 { TSS処理 RUNコマンドのオプションにL=LIB/ASL7と指定する。

参考マニュアル FXF11-1 科学技術計算ライブラリ説明書(ASL 線形計算編)

(2) MATHLIB-6のバージョンアップ

下記のサブルーチンが追加になる以外は、修正、変更はありません。

- 非線形方程式(二分割法) SEBSCT, WEBSCT
- 第2種フレドホルム型積分方程式 SNFRD2, WNFRD2
- 第1種ヴォルテラ型積分方程式 SNVLT1 (単精度のみ)
- 第2種ヴォルテラ型積分方程式 SNVLT2 (単精度のみ)
- 分散分析(累積法) S8CUM1, W8CUM1

(3) ソース・プログラムの出力方法

ソース・プログラムが公表されているものは、下記の方法で出力することができます。この方法は、従来から可能であり、新しいサービスではありませんが、上記の追加、抹消に関連するため、再掲載します。

センター・ライブラリについて(再掲載)

(1) 追加サブルーチン

東北大学大型計算機センターより譲受けた下記の2個のサブルーチンが、11月14日(月)よりFORTRAN 77のVモードでのみ使用可能となります。FORTRANから使用される場合には、ソース・プログラムが公表されていますから、ソース・プログラムを利用して下さい。

プログラム名	TMINT (単精度)	} 多重積分, ガウス法, 分点数無制限
	TMINTD (倍精度)	

作成者 東北大学金属材料研究所 中西 修

仕様書など 大阪大学大型計算機センター・ニュース, Vol. 13, No. 3

なお、今後センター・ライブラリに追加されるものは、FORTRAN 77のVモードに限定します。御了承下さい。

(2) 抹消サブルーチン

抹消予定のプログラム(ランク4のもの)を、1月よりセンター・ライブラリから抹消します。なお、代替プログラムは、いずれもMATHLIB-6に11月14日(月)から追加されるものです。

抹消されるプログラム		代替プログラム (MATHLIB-6)
分類コード/ サブプログラム名	タイトル	
D0/SIEQV1	第一種のボルテラ型積分方程式	SNVLT1
D0/SIEQV2	第二種のボルテラ型積分方程式	SNVLT2
D0/SIEQF2	第二種のフレドホルム型積分方程式	SNFRD2, WNFRD2

利用負担金の改定について（再掲載）

12月1日(木)から、次のように利用負担金額の一部が改定されますのでお知らせします。なお、その他の料金については従来どおりです。

区 分		現 行	改 定 後
基本負担額	バッチ処理	計算依頼 1 件につき 50 円とする。 ただし、リモートバッチ処理については、計算依頼 1 件につき <u>20 円</u> とする。	計算依頼 1 件につき 50 円とする。 ただし、リモートバッチ処理については、計算依頼 1 件につき <u>10 円</u> とする。
演算負担額	バッチ処理	CPU タイム 1 秒につき 7 円とする。ただし、計算依頼 1 件のうち 300 秒を超える部分については、1 秒につき 4 円、900 秒を超える部分については、1 秒につき <u>2 円</u> とする。	CPU タイム 1 秒につき 7 円とする。ただし、計算依頼 1 件のうち 300 秒を超える部分については、1 秒につき 3 円、900 秒を超える部分については、1 秒につき <u>1 円</u> とする。
ファイル 使用負担額	マス・データ ・ファイル	月ごと、1 カートリッジにつき <u>2,000 円</u> とする。	月ごと、1 カートリッジにつき <u>1,000 円</u> とする。

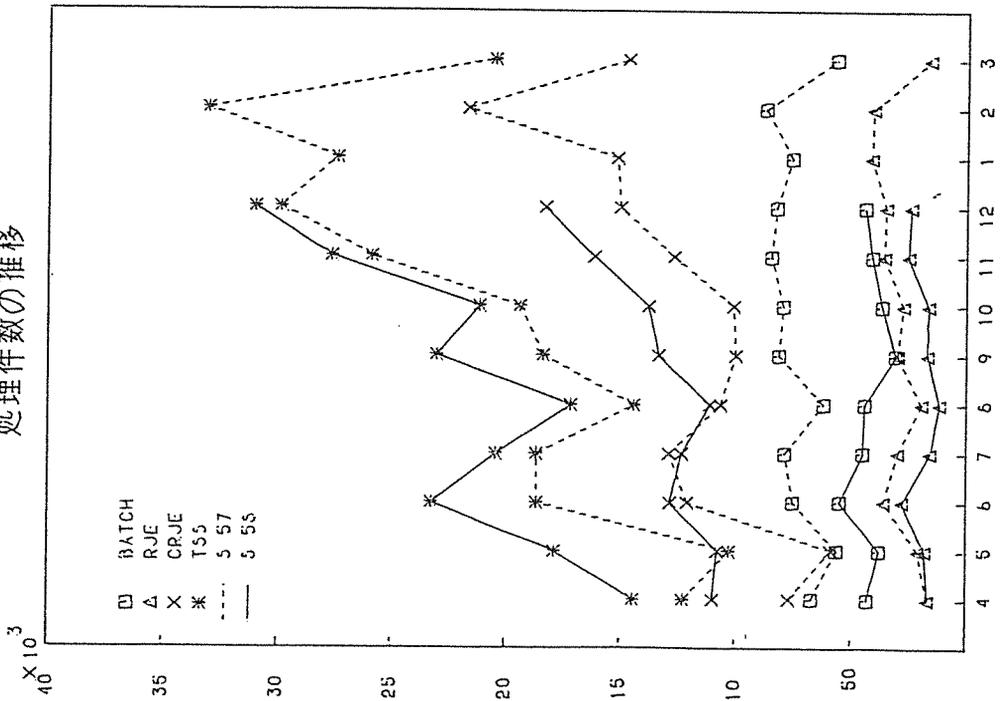
昭和58年度処理状況

項目 月	ACOS SYSTEM (1000)						パソコン処理						タイムシェアリング処理						合計	
	ローカルバッチ		リモートバッチ		会話型リモートバッチ		専用回線		交換回線		専用回線		交換回線		件数	演算時間				
	件数	演算時間	件数	演算時間	件数	演算時間	件数	演算時間	件数	演算時間	件数	演算時間	件数	演算時間						
4	4290	62123	1659	37354	10962	324705	10076	166633	4361	72973	31346	665766								
5	3764	169824	1601	71360	10775	331981	12987	216752	4901	95021	34216	669936								
6	5494	153069	2794	209916	12635	311759	16732	279147	6505	106631	44360	1060422								
7	4504	93619	1561	161607	12342	396365	14701	240111	5732	121376	36663	1033276								
8	4423	205062	1170	44946	11136	345452	12762	223756	4376	106632	33691	927670								
9	3099	148452	1701	74142	13350	604123	17052	316016	5971	135510	41173	1276245								
10	3660	163916	1655	163620	13600	622328	14942	199672	6216	109242	40296	1276960								
11	4114	112576	2534	314606	16155	527622	20035	276015	7595	126240	50436	1357263								
12	4424	242716	2439	249950	16290	930234	21326	361426	9660	164733	56139	1969061								
1																				
2																				
3																				
合計	37612	1351551	17340	1367905	119647	4394569	140603	2305532	55322	1061255	370724	10460645								

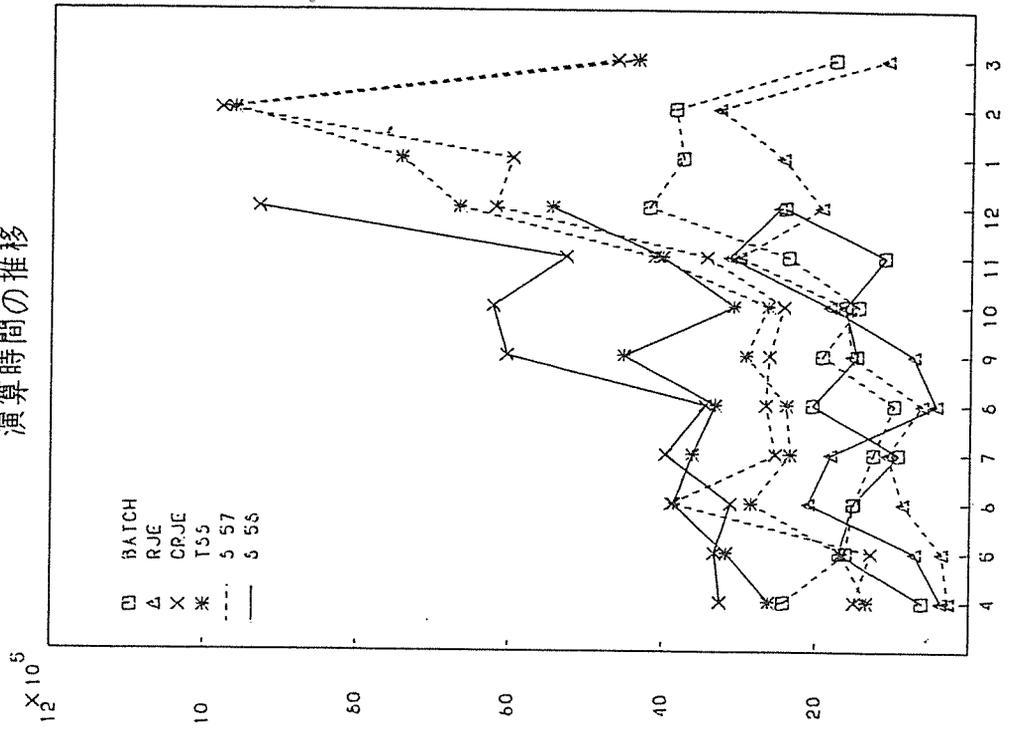
前年度比	56.74	76.05	66.61	120.21	123.34	165.33	116.60	125.57	116.66	123.30	103.97	126.73				
------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--	--	--	--

昭和58年度処理状況

処理件数の推移



演算時間の推移



昭和58年度処理状況

件数の分布

	ロ-カル	リモ-ト	CRJE	専用	交換
4	13.6	5.2	34.9	32.1	13.9
5	11.0	5.2	31.4	37.6	14.3
6	12.3	6.2	26.9	37.7	14.6
7	11.5	4.0	31.7	37.6	14.7
8	13.0	3.7	32.6	37.7	12.9
9	7.5	4.1	32.8	41.4	14.5
10	9.1	4.1	34.2	37.0	15.4
11	8.1	5.0	32.0	39.7	15.0
12	7.8	4.3	32.5	37.9	17.2
平均	10.5	4.6	32.3	37.7	14.7

演算時間の分布

	ロ-カル	リモ-ト	CRJE	専用	交換	演算時間
4	5.4		47.3	27.5	10.6	665766
5	19.0	6.0	37.3	24.5	11.0	889936
6	14.4	19.7	29.3	26.3	10.0	1060422
7	9.0	17.5	36.3	23.2	11.7	1033276
8	22.1	4.6	37.2	24.3	11.4	927670
9	11.6	5.6	47.2	24.7	10.6	1276245
10	12.6	14.3	46.6	15.6	6.5	1276980
11	8.2	23.1	36.6	20.3	9.3	1357263
12	12.3	12.6	47.2	16.3	9.3	1969061
平均	13.2	12.4	41.2	22.7	10.3	

○利用者数

項目 月	登録者数	実利用者数	ジョブ件数	実利用者 一人当りの ジョブ件数	同時TSS 端 最大接続数
4	1,162	694	31,348	45	75
5	1,216	720	34,218	48	89
6	1,316	787	44,360	56	94
7	1,375	847	38,863	46	96
8	1,404	808	33,891	42	80
9	1,454	904	41,173	46	119
10	1,494	897	40,296	45	101
11	1,550	931	50,436	54	127
12	1,565	975	56,139	58	130

(注) 登録者数及び実利用者数には共同研究者も含まれている。
前回の実利用者数は集計ミスにより今回修正している。

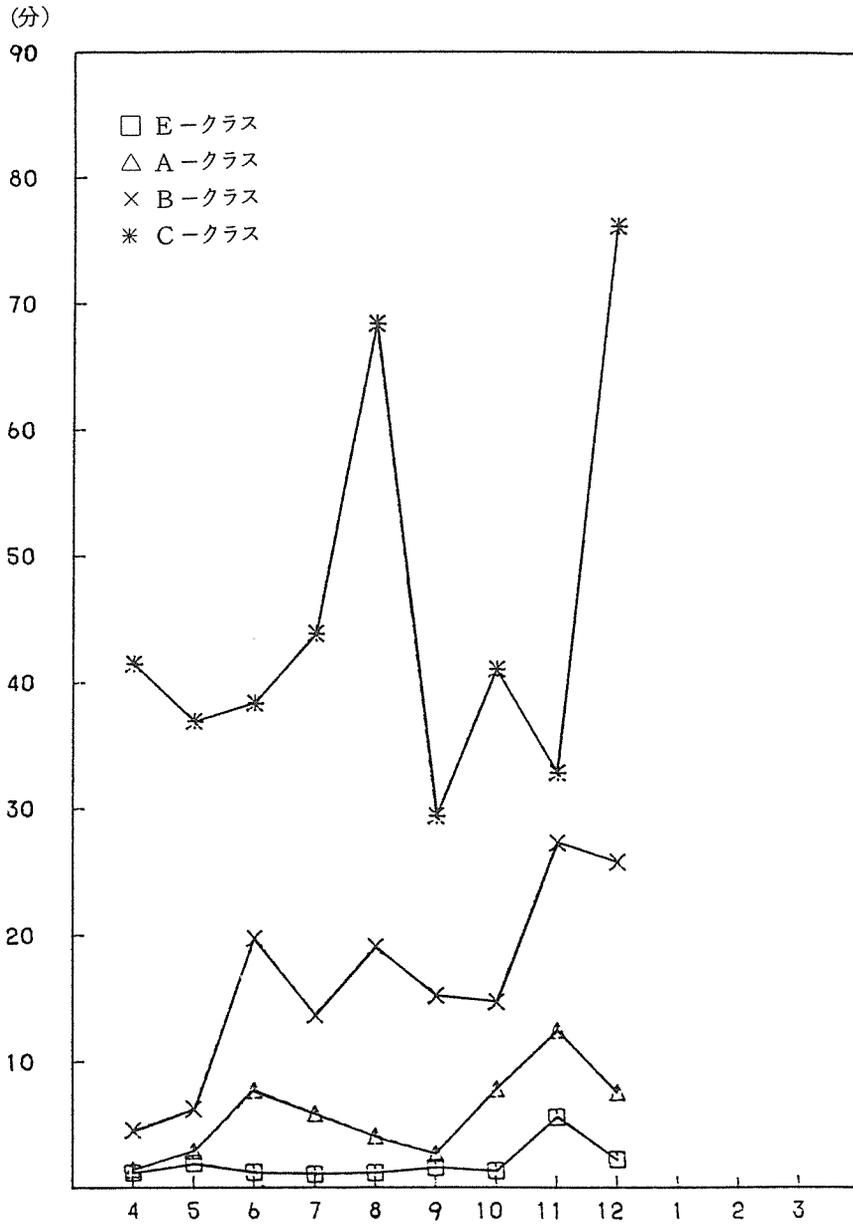
○利用者数とファイル使用状況

月	課 申 請 者 数	共 同 研 究 者 数	フ ァ イ ル 利 用 者 数	フ ァ イ ル 使 用 量(MB)
4	1,035	127	891	3,922.18
5	1,070	146	772	4,323.99
6	1,140	176	814	4,596.45
7	1,162	213	843	4,061.91
8	1,185	219	872	3,719.67
9	1,224	230	906	3,999.97
10	1,256	238	934	4,532.16
11	1,278	272	968	4,862.89
12	1,290	275	982	4,743.97
1				
2				
3				

○バッチジョブの平均ターンアラウンドタイム (SYSTEM 1000)

ジョブクラス	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
E		1.182	1.904	1.217	1.045	1.157	1.555	1.305	5.524	2.220				1.901
A		1.421	2.892	7.687	5.845	4.055	2.659	7.771	12.405	7.513				5.805
B		4.562	6.236	19.734	13.686	19.072	15.178	14.674	27.265	25.719				16.236
C		41.469	36.934	38.367	43.856	68.406	29.424	41.028	32.793	76.088				45.374
G		—	—	—	—	—	—	—	—	—				—
M		5.958	5.435	6.173	20.737	—	4.877	14.231	7.882	9.082				9.297
月平均		20.645	10.680	14.636	17.338	23.173	10.739	15.800	17.174	24.124				15.723

ターンアラウンドタイム



データ・ベース利用状況 (1)

月 項目	4		5		6		7		8		9	
	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数
地球学データベース (GEODAS)	3	4	1	1	1	2	1	1	3	7	4	44
たんぱく質結晶構造 データベース (PROTEN-DB)	3	84	1	9	2	6	6	32	5	33	9	86
計算機利用相談 データベース (CONSULTANT)	11	45	8	26	7	24	8	24	6	19	7	16
核四極共鳴スペクトル データベース (NQR)	3	15	3	52	2	9	3	35	7	69	6	38
日本科学学術映像 データベース (JSR)	3	20	3	25	3	26	4	13	3	8	6	27
音声データベース (SPEECH-DB)	3	21	1	4	3	9	1	7	2	3	3	9
合 計	26	189	17	119	18	76	23	112	26	139	35	220

・利用者数は実利用者数を表わす。

・上記データベースの集計は、INQ ロギングシステムを利用して集計しています。そのために、データベースの利用形態により集計できない場合があるので実際の利用件数よりも少なく集計されています。

データベース利用状況 (2)

月 項目 データベース名	10		11		12		1		2		3	
	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数
地球学データベース (GEODAS)	2	32	1	7	3	8						
たんぱく質結晶構造 データベース (PROTEN-DB)	3	60	4	141	5	14						
計算機利用相談 データベース (CONSULTANT)	5	34	5	8	5	29						
核四極共鳴スペクトル データベース (NQR)	2	10	2	3	4	14						
日本科学術映像 データベース (JSR)	2	23	2	14	3	33						
音声データベース (SPEECH-DB)	3	9	1	1	0	0						
合 計	17	168	15	174	20	98						

- 利用者数は実利用者数を表わす。
- 上記データベースの集計は、INQロギングシステムを利用して集計しています。そのために、データベースの利用形態により集計できない場合があるので実際の利用件数よりも少なく集計されています。

TSS 利用状況 (会話数)

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
専用回線	センター外	4,020	5,181	6,642	5,422	5,038	6,578	6,212	8,295	9,190				
	センター内	5,968	7,631	9,799	8,970	7,576	10,233	8,447	11,103	11,838				
	小計	9,988	12,812	16,441	14,392	12,614	16,811	14,659	19,398	21,028				
公衆回線	公 300BPS	526	490	500	377	376	431	3,290	3,968	4,879				
	社 1200 "	631	745	1,440	1,324	934	1,143	1,440	2,012	3,104				
	構 300 "	2,122	2,541	3,290	2,790	1,915	2,848	691	700	753				
その他(ネットワークも含む)	内 1200 "	1,082	1,125	1,275	1,241	1,153	1,549	795	918	924				
	小計	4,361	4,901	6,505	5,732	4,378	5,971	6,216	7,598	9,660				
	合計	88	145	291	309	168	241	283	637	298				
CPU時間 (秒)	14,437	17,858	23,237	20,433	17,160	23,023	21,158	27,633	30,986					
接続時間	6,728:45	8,694:32	10,770:57	10,105:02	7,905:58	10,579:26	10,682:41	14,372:19	16,795:58					

(注) 公社線の2400 BPSは、リモート・バッチ専用なのでこの集計からはついでている。

ラボラトリ・オートメーション利用状況

区分	月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
L	件数	37	52	227	322	16	78	79	145	682			
	使用時間(秒)	2,836	2,143	26,618	15,412	633	11,902	9,074	26,358	60,373			
A	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	使用時間(秒)	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
処理													

ネット・ワーク利用状況

区分	月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
RJE	件数	153	0	29	40	52	125	79	152	179			
	CPU(秒)	162	0	29	145	985	4,549	4,630	10,835	49,709			
TSS	件数	62	120	260	240	150	214	261	249	257			
	CPU(秒)	102	3,243	560	487	2,665	3,887	2,151	1,395	927			

注 ・サーバのみ集計している。

・RJEには会話型リモート・バッチも含まれる。

昭和58年度図形処理利用状況

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
東洋電機 F3000 (XY1)	69	90	141	101	131	120	139	306	167	0	0	0	1264
日本電氣 N6928C (XY2)	2	2	3	17	22	49	28	65	79	0	0	0	267
日本電氣 N6928C (XY3)	0	0	2	21	4	0	8	8	23	0	0	0	66
プロッタ合計	71	92	146	139	157	169	175	379	269	0	0	0	1597
前年度比 (%)	157.8	65.7	76.4	104.5	180.5	59.9	116.7	133.0	101.9	0.	0.	0.	101.3